河 砂 第 ５ ４ ９ 号
平成１９年１２月１９日

最上小国川の“真の治水”を考える会
共同代表　押切　喜作　様
下山　久伍　様
事務局長　草島　進一　様

山形県土木部長
高村　義晴

公開質問状に対する回答について

貴会より平成１９年１１月３０日付けで提出された「最上小国川ダム建設事業について抗議と公開質問状」につきまして、別紙により回答いたします。

公開質問状の回答について

１　日本一環境に優しい穴あきダムの根拠についてのご質問

町民大会のちらしで「日本一環境に優しい」ことの表現につきましては、最上小国川治水堤建設促進協議会に確認したところ、「これまで、類似ダムを見学させていただいたことや各種委員会等での意見をお聞きし、最上小国川の穴あきダムであれば、日本一をめざすという気持ちを表した」というもののようでありました。

穴あきダムの河川環境への懸念については、

①土砂移動の変化

②濁水の長期化

③水温の低下

④富栄養化による水質悪化

⑤アユのえさである藻類の品質低下の項目などが考えられますが、

これらの項目につきまして、影響の度合いを科学的に検証するため、先進事例の現地調査や聞き取り調査などを実施しました。

また、藻類への影響では、平成７年からの最上小国川流況をもとに、ダム施工後の藻類を更新する小洪水の発生回数を算出し、変化は少ないと想定され、これらのことは、県ＨＰで回答文を公表しました。このため穴あきダムが下流河川のアユ等を含めた自然環境へ与える影響は極めて小さいと考えています。

なお、今後とも、最上小国川流域環境保全監視協議会（仮称）を設立し、専門家や流域住民からの意見をいただき、河川への影響緩和策や解消策につきまして、十分配慮して取り組んで行きたいと考えています。

２　鮎の天然遡上が確認されている川での「穴あきダム」の実績について

アユの天然遡上確認につきましては、山形県では毎年、事前に天然アユと放流アユのうろこの数を確認し、天然かどうかの判定をしていると聞いています。全国の、類似の穴あきダムがある河川について、アユ生息状況の聞き取りをしましたが、天然かどうかの判定は、それぞれの条件にもよりますが、その年に事前調査を行っていない場合は難しいと聞いています。さらに、全国の天然鮎遡上事例については、聞き取り調査を進めていきたいと考えています。

３　署名活動について

このことについては、最上小国川治水堤建設促進協議会が実施した署名活動について確認したところ、住民の思いから、地域が自主的に活動したものであり、公正な手法で行われたと聞いています。

なお、今後ともご質問の内容につきまして、調査を行いまとまりしだいご報告したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

以　上